

平成 22 年 11 月 17 日

**独立行政法人国民生活センター発表**  
**『二酸化塩素による除菌をうたった商品 - 部屋等で使う据置タイプについて - 』**  
**に関して**

新型インフルエンザの流行とともに、消費者においてその予防対策として二酸化塩素による部屋等の除菌をうたう商品への関心が高まり、それに伴い PIO-NET(全国消費生活情報ネットワーク・システム)にその安全性や品質に関する相談が増えてきています。しかしながら、国内において二酸化塩素の気中濃度についての基準がないことから、独立行政法人国民生活センターは、当社『パルエックスG 50g』を含む、9社9銘柄について、使用中にどのくらいの二酸化塩素が放散されているのか等を調査し、その結果を11月11日消費者に対し情報提供しました。

当社が製造元(大幸薬品株式会社)より供給され、販売している当該製品は、製造元の「二酸化塩素を液体とガス体で濃度管理できる特許技術」を使用した製品です。今回のテスト結果では、当該製品は二酸化塩素ガスの放散速度等に関して、問題となる指摘はありませんでした。

当社は製造元の協力を得て、今後もお客様に安心してご使用いただける製品の販売及び適切な情報提供に努めてまいります。

報道発表資料は、以下のウェブサイトをご参照ください。

[http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20101111\\_1.pdf](http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20101111_1.pdf)

\* 独立行政法人国民生活センター(ウェブサイト <http://www.kokusen.go.jp/>)  
消費者庁の地方消費者行政の支援に関する業務として、国民生活の安定及び向上に寄与するため、総合的見地から国民生活に関する情報の提供及び調査研究を行うとともに、重要消費者紛争について法による解決のための手続を実施することを目的として、独立行政法人国民生活センター法に基づき設置されています。

アールプラン株式会社  
レッドハート株式会社

今回の国民生活センターからの報道発表資料の『パルエックスG 50g』関連部分のポイントは以下の通りです。(No.8が当社『パルエックスG 50g』です。)

【塩素系ガス\*の放散速度の経時変化】\*二酸化塩素・塩素を含むガス

『パルエックスG 50g』は使用開始1日後に放散速度が最大となり、その後減少し、21日後まで安定的に放散された。(国民生活センター報道発表資料5Pより)

【二酸化塩素及び塩素の放散速度】

『パルエックスG 50g』は使用開始1日後、5日後ともに明らかな二酸化塩素の放散が認められた。塩素に関しては、0.2mg/h・個(定量下限相当)であった。(国民生活センター報道発表資料6Pより)

二酸化塩素の放散が認められた3銘柄について濃度測定を行なった。『パルエックスG 50g』の二酸化塩素の気中濃度は、使用開始1日後・5日後において6畳・8畳・10畳の部屋すべてで作業環境における許容濃度内(ACGIH許容濃度内)であった。(国民生活センター報道発表資料7Pより)

【においの強さと容認性】

『パルエックスG 50g』は、10人中2人が生活環境不快感において「においは気にならない」、10人中3人が「まあ在室していてもよい」と答えた。(国民生活センター報道発表資料8Pより)

【においに関する表示】

「臭気強度が大きかった銘柄は、換気するなどの注意が必要であった」と発表資料に記載があった。(国民生活センター報道発表資料9Pより)

しかしながら、『パルエックスG 50g』については、においに関する使用上の注意において「室内で成分臭を感じる状態で長時間使用しないで下さい。成分臭を強く感じる場合は十分に換気をして下さい。」と表記しており、表示に問題はないと考えています。

【ご参考】

### 二酸化塩素の「働き」と「特徴」

『パルエックス』シリーズの主成分である二酸化塩素は、特定のアミノ酸のみを酸化し、ごく低濃度でウイルス除去・除菌・消臭に効果を発揮します。

このような二酸化塩素の働きについて、製造元では、インフルエンザ等の様々なウイルス・菌を用いて研究を続けています。その研究成果は、“国際的な科学専門誌への論文掲載”や“国内外での学会発表”により世界中の専門家たちに知られるようになり、「様々なウイルスや菌に対して、二酸化塩素が活用出来る」として注目を集めております。

また、二酸化塩素は、日本国内で“浄水(水道水等)処理”や“食品添加物として小麦粉の漂白処理”にも使用が認められている成分です。次亜塩素酸ナトリウムと比べ、有害なトリハロメタンがほとんど発生しないという特徴もあります。